

主要地方道多古笹本線 埋蔵文化財調査報告書 5

— 多古町飯土井遺跡 —

平成 20 年 3 月

千葉県 県土整備部
財団法人 千葉県教育振興財団

主要地方道多古笹本線 埋蔵文化財調査報告書 5

— たこまちいいどい
— 多古町飯土井遺跡 —



序 文

財団法人千葉県教育振興財団（千葉県文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県教育振興財団調査報告第594集として、千葉県国土整備部の主要地方道多古篠本線バイパス改良工事事業に伴って実施した多古町飯土井遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代後期の土器などが栗山川沿いの低湿地から発見され、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成20年3月

財団法人千葉県教育振興財団

理事長 福島義弘

凡　例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による主要地方道多古笛本線バイパス改良工事事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、香取郡多古町多古字高根下地先に所在する鉢土井遺跡（遺跡コード347-014）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財團法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆は、上席研究員 土屋潤一郎が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、多古町教育委員会、千葉県県土整備部の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「新東京国際空港」(NI-54-19-10-1)・「多古」(NI-54-19-10-2)・
「岩部」(NI-54-19-6-3)・「八日市場」(NI-54-19-6-4)
第2図 多古町役場作成「多古町」(IX-KF 94-4) 1/2,500 (平成10年修正版)
- 8 本書で使用した挿図の方位は、すべて座標北であり、測量値は日本測地系による。

本文目次

I	はじめに	1
1	調査の経緯と経過	1
2	遺跡の位置と周辺遺跡	1
II	調査の概要	3
1	調査の方法	3
2	調査の成果	3
III	まとめ	6
	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図	遺跡の位置と主な周辺遺跡	2	第3図	土層柱状図	5
第2図	調査区及びトレンチ配置図	4	第4図	出土遺物	5

図版目次

図版1	調査区遠景・近景
図版2	調査状況・トレンチ掘削状況・土層断面
図版3	出土遺物

I はじめに

1 調査の経緯と経過

千葉県県土整備部は、香取郡多古町多古字高根下地先において主要地方道多古幕本線バイパス改良工事業を計画し、千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会したところ、当該地先が飯土井遺跡に含まれることが確認された。そのため、千葉県教育委員会と協議の結果、事業地区内の埋蔵文化財の取扱について記録保存の処置を講ずることとなり、財団法人千葉県教育振興財團が発掘調査を実施することとなった。

現地における発掘調査は、平成18年12月に香取郡多古町多古字高根下地先の2,954m²について実施した。確認調査が行われ、調査区域内に遺構が検出されなかったため、本調査の必要性が認められず確認調査のみで調査を終了した。

飯土井遺跡の発掘調査及び整理作業に係わる各年度の組織、担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

平成18年度

期 間 平成18年12月1日～平成18年12月22日
組 織 北部調査事務所長 古内 茂、上席研究員 鳴田浩司
内 容 発掘調査 上層確認調査88m²（対象面積2,954m²）

平成19年度

期 間 平成19年8月1日～平成19年8月15日
組 織 北部調査事務所長 豊田佳伸、上席研究員 土屋満一郎
内 容 水洗・注記から報告書刊行

2 遺跡の立地と周辺遺跡（第1図）

下総台地の北東部を南流し九十九里平野から太平洋に注ぐ栗山川は、多古町の南部でその流域平地の幅を広げる。東から流れる借当川や西から流れる多古橋川が順次栗山川と合流するためである。飯土井遺跡は、この借当川の合流地点より2km上流の流域平地が広がり始める部分に所在する。標高は6mに満たない。

栗山川本支流域の範囲に広がる栗山川流域遺跡群は、低湿地遺跡が中心となり、過去に丸木舟が数多く出土していることが知られており、極めて特徴のある地域性を示している。今回調査した飯土井遺跡では昭和33年に丸木舟出土の記録があり、近隣でも新谷2番遺跡、新谷3番遺跡、広川遺跡、七升遺跡、宮田下泥炭遺跡、宮田下丸木舟出土地等多数の出土例が報告されている。

参考文献

1982 「八日市場市史上巻」八日市場市



II 調査の概要

1 調査の方法（第2図）

調査にあたっては、公共座標（国土方眼座標第IX座標系）を基準に、X=-28.840、Y=58.200を基点として、調査対象地を覆うように、20m×20mの方眼網を設定し、これを大グリッドとした。大グリッドには、基点から東に向アルファベットでA～Cを、南に向算用数字で1～8を振り当て、2A、7Cのように呼称する。さらに大グリッドの中を2m四方の網目に細分し100の小グリッドをつくり、大グリッドの北西端を00とし、東へ一の位を送って09まで、南に十の位を送って90までとし、南東端を99とした。この大グリッドと小グリッドを組み合わせて小グリッドの呼称とし、具体的には、4B-28のように表すこととした。

姫土井遺跡は、栗山川流域遺跡群に含まれ、今回の調査区も低湿地にあたるため、調査対象を上層のみとし下層調査は対象外とした。確認トレンチは、緩やかに曲線を描き南北方向に延びる道路設計にあわせた調査範囲の中に、原則として道路の延長方向に直交するよう設定した。トレンチの配置にあたっては、調査区内への均等な配分を心がけたが、一部建物跡など調査に不適な状況の見られる部分は設定を回避した。トレンチの規模は、基本的に1m×3mとし、土質の変化に注意しつつ重機により掘り下げることとし、掘り上げた土砂を精査し遺物を収集する方法をとった。

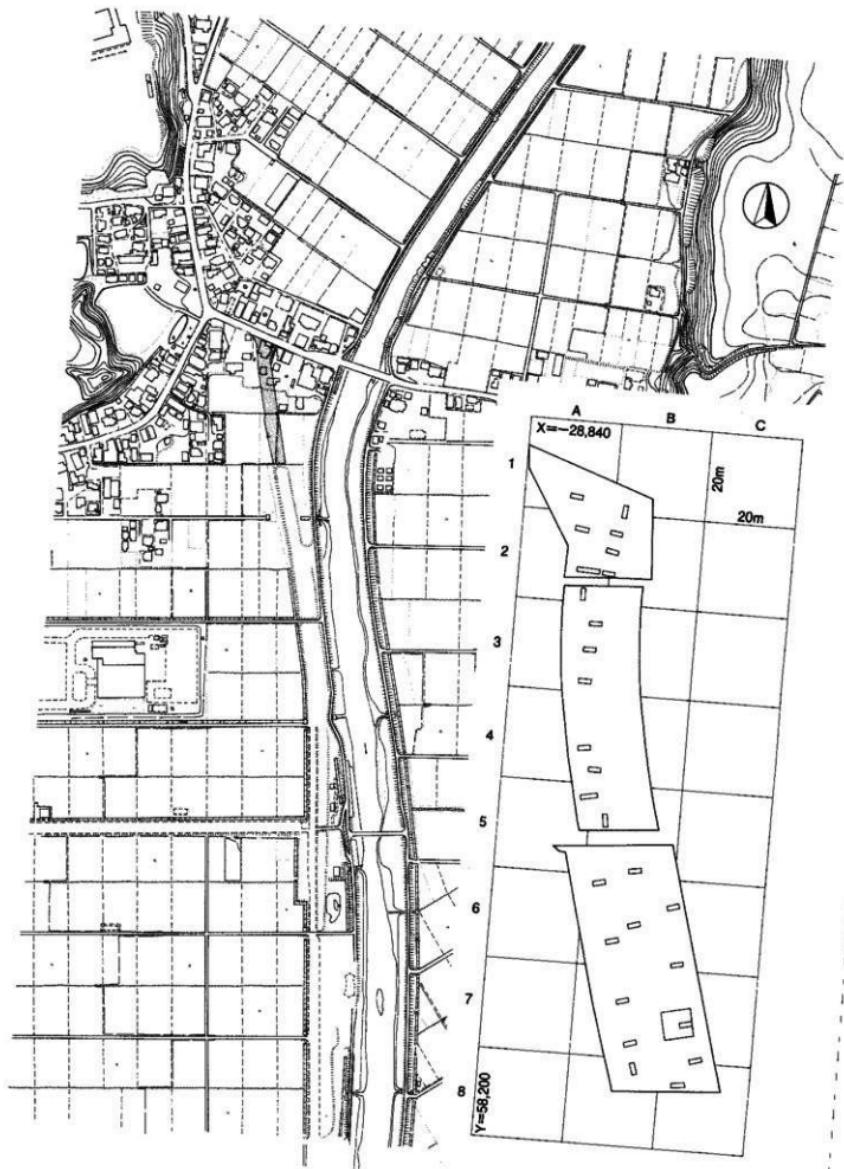
2 調査の成果（第3・4図）

確認調査の結果、遺構は検出されなかつたが、調査区内からは、近世の陶磁器、中世の陶器、奈良・平安時代の土師器、古墳時代の須恵器、縄文土器等が出土している。図示可能なものは少ないが、その中でも状況の良いものを選んで採りあげた。

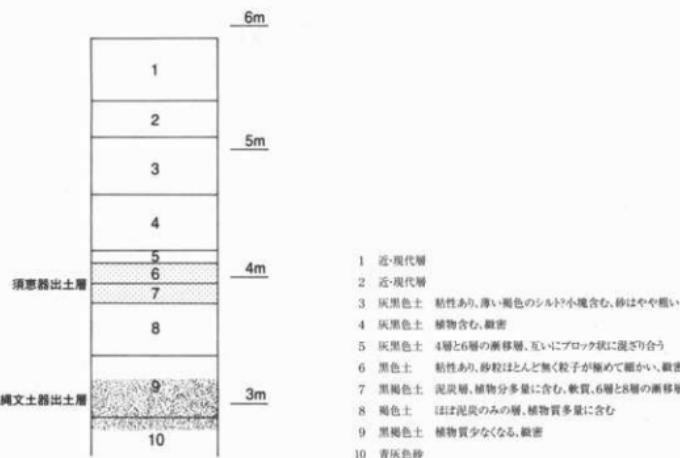
1～3は、縄文時代中期の土器である。1と2は、阿玉台式の深鉢である。ともに胎土に雲母片を含む。3は、加曾利E式の深鉢片である。

4～14は、縄文時代後期の土器である。4～12は堀之内式土器で、4～8は緩く湾曲した算盤玉形注口土器の上半部で、同一個体である。地文に縄文を施し、三角形を基本とするモチーフを沈線で描き連続させている。9・10はその下半部分と思われ、無文である。11は深鉢の胴部小破片であり、12は底部片である。13・14は加曾利B式土器で、13は加曾利BⅡ式の算盤玉状に肩が張る深鉢の口縁部である。14は浅鉢である。

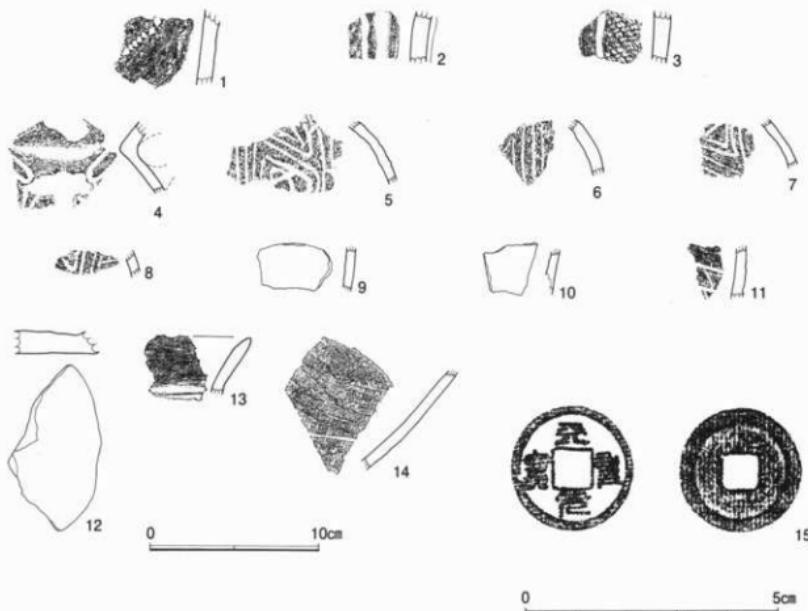
15は北宋錢の「天聖元宝」である。各部の法量は、縁外径24.7mm、縁内径20.5mm、郭外径8.4mm、郭内径6.7mm、重量3.30gである。



第2図 調査区 (1/5,000) 及びトレンチ配置図 (1/1,000)



第3図 土層柱状図（模式図）



第4図 出土遺物

III まとめ

千葉県内においては、約120艘の丸木舟が出土している。そのうちの90艘近くが旧椿海から栗山川流域にかけての地域に集中している。飯土井遺跡においても、昭和33年に丸木舟が出土した記録が残るが、その詳細は不明である。飯土井遺跡周辺から出土した丸木舟のなかには、放射性炭素年代測定法（C14）によりその製作時期が推定される例もある。昭和50（1975）年に多古町島地先B地点から出土したものは、測定時点で $3,470 \pm 12$ B.P.、昭和28（1953）年に旧横芝町高谷川B地点遺跡から出土した丸木舟には、同様に $3,070 \pm 120$ B.P.という、それぞれ縄文時代後期に相当する数値が同法により求められている。また、旧八日市場市矢摺泥炭層遺跡、宮田下泥炭遺跡では、やはり後期の加曾利B式土器を伴っている。

旧椿海から栗山川流域にかけての地域で出土した約90艘の丸木舟のうち、帰属する時代が明らかにされているものが50艘以上あるが、さらに細分するとそのうちの3割が縄文時代後期に属する。

今回の調査で明らかとなった縄文時代後期の土器出土状況や、周辺遺跡において出土した丸木舟の帰属する時期を考慮すると、昭和33年に飯土井遺跡から出土した丸木舟の時期は縄文時代後期に属するものである可能性が高いといえるであろう。

参考文献

- 1984 「八日市場市矢摺泥炭遺跡発掘調査報告書-独木舟の調査-」 借当川遺跡調査会
- 1985 「昭和60年度遺跡保存方法検討委員会資料」 (財)千葉県文化財センター
- 1999 「栗山川流域遺跡群多古町谷中地点」 (財)千葉県文化財センター



調査区遠景（南から）



調査区近景（南から）



調査区近景（北から）

図版2



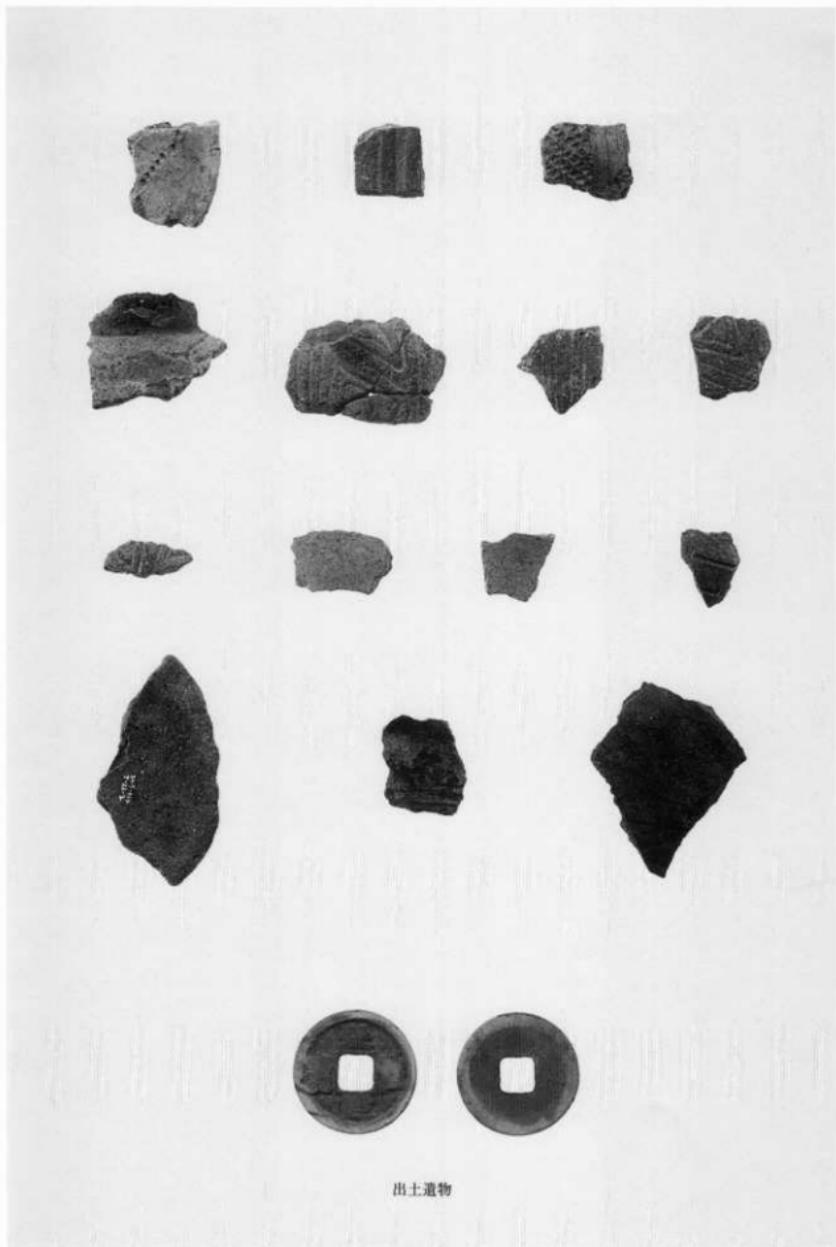
調査状況



トレンチ掘削状況



土層断面



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しゅようちほうどうたこさまとせんmaiぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	主要地方道多古姫本線埋蔵文化財調査報告書
副書名	飯土井遺跡
卷次	5
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第594集
編著者名	土屋潤一郎
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 TEL 043-424-4848
発行年月日	西暦2008年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
飯土井遺跡	香取郡多古町 多古字高根 下地先	12347	014	35度 44分 16秒	140度 28分 37秒	20061201～ 20061222	2,954	道路建設 に伴う事 前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
飯土井遺跡	包藏地	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中世 近世		縄文土器(中期、後期) 須恵器 土師器 陶器 陶磁器	昭和33年に栗山川河 川域から出土した丸 木舟に関連すると思 われる縄文土器が出 土した。

要約	飯土井遺跡は栗山川流域遺跡群に属する低湿地遺跡である。この地域の特色として丸木舟の出土例が多いことが挙げられ、本遺跡からも過去の調査で丸木舟出土の報告がなされているが、詳細は不明であった。今回の調査では、遺構は検出されなかったが、出土した遺物や周辺遺跡の調査例から、この丸木舟が縄文時代後期に属する可能性が強まったと思われる。
----	---

千葉県教育振興財団調査報告第594集

主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書5

—多古町飯土井遺跡—

平成20年3月25日発行

編 集 財團法人 千葉県教育振興財団

文 化 財 センタ一

發 行 千葉県県土整備部

千葉市中央区市場町1番地の1

財團法人 千葉県教育振興財団

四街道市鹿渡809番地の2

印 刷 株式会社 エリート情報社【印刷出版局】

成田市東和田415番地10